

高・大・一般 漢字（草書）

長野 竹軒

書譜（孫過庭）④



族 都

〈解説〉

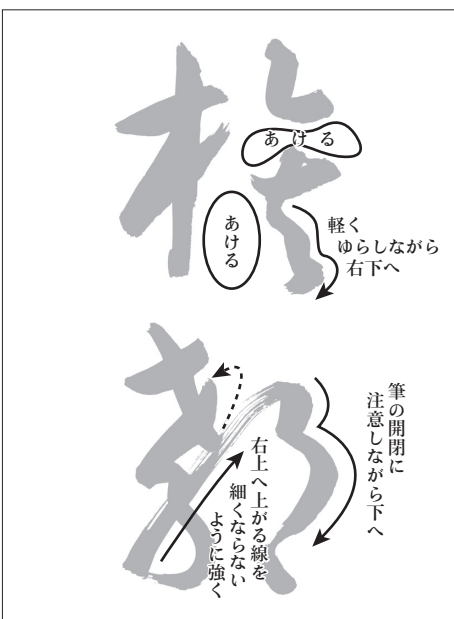
今回の課題について、「族」の偏の書き方が「木へん」のように見えますが、「方へん」もこのように書きます。二字目の「都」は偏と旁が調和するようにバランスを良く観察してから臨書しましょう。また、丁寧に古典を見ながら臨書しようとするると運筆が遅くなりがちです。墨は一字一字付けても良いですが、「呼吸を切らさない」ように運筆の速度に注意して書きましょう。文字の崩し方などを頭に入れてから取り組み、途中で筆を止めることがないように心掛けてください。

〈学習上の留意点〉

書譜の特徴でもある線の厚みや温かさに注意し墨を多く含ませて書き上げましょう。

「族」：偏と旁のバランスに留意。

「都」：右上へ上がる線に留意。



高・大・一般 漢字

新(10級から五段までは作品用紙として画仙紙八ツ切り(68cm×17.5cm)又は、画仙紙半切(136cm×35cm)の出品。  
六段から八段までは作品用紙として従来通り画仙紙半切(136cm×35cm)のみの出品です。

加藤 泰弘



〈釈文〉 惠風和暢

〈意味〉 そよ風がのどかに吹いている

〈出典〉 王羲之「蘭亭序」

〈解説〉

王羲之は、蘭亭において曲水の宴を開催し、集まった名士が作った詩をまとめた詩集の序文を書きました。これが、代表作の『蘭亭序』です。この日は、「天朗氣清」、「惠風和暢(空は明るく晴れ、空気は澄み、そよ風がのどかに吹いている)」という抜群の天候でした。

そのような情景を思い浮かべながら、「蘭亭序」の書きぶりを基に、王羲之の影響を受けた空海の「風信帖」なども参考とし、律動と余白を意識しながらまとめてみました。書の表現の根底には、初唐代の楷書の均斉と均衡とれた整齊美があると考えています。作例の書体は行書ですが、制作にあたっては、褚遂良の

「雁塔聖教序」を念頭に置いています。

〈学習上の留意点〉

惠(惠)：「風信帖」にも複数みられる文字のため参考としてみてください。一字目なので少し慎重に筆を運びました。

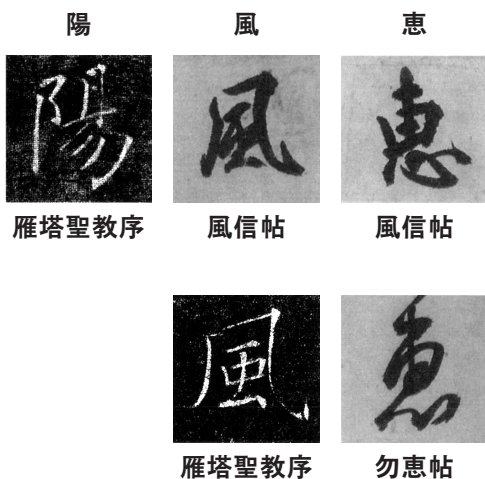
風：「惠」を受けて第一画を起筆し、すっきりとした表現となるよう、速度感を増し渴筆で「几」を書ききりました。「虫」は余白を生かすように静かに運筆しました。

和：墨をつけ、「禾」ではゆったりとした和らぎを表現し、第二画の横画を左から延ばし、全体の調和を図るようにしました。

暢：これまでの三文字を受けながら、最後の文字として全体が収まるよう意識して書きました。

書は何も書いていない「余白」が美しさを放つ表現ですので、常に意識して制作してみてください。

参考とした古典(例)



蘭亭序(八柱第一本)